

平成 25 年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業



新聞紙と木刀を使用した指導法

平成 25 年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業 [主催＝（公財）日本武道館・（一財）全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省] が、平成 25 年 6 月 7 日～9 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、研究者 21 名、日本武道館事務局 2 名により実施された。

■1 日目（6 月 7 日）

開講式後、記念写真を撮り、自己紹介も兼ね全国 9 ブロックの各研究者から武道授業実践報告が行われた。初めに武道授業研究校の発表を花澤、国谷両研究者が行い、続いて北海道から九州まで順に各自準備した資料をもとに報告が行った。

その後、軽米研究者が武道授業に関わる教育委員会の実状を報告した。最後に全員で小久保研究者の指揮のもとリズム剣道を行った。その際、通常の素振りと同様に右手に力を入れず心地よい強さで振り下ろすよう注意があった。



■2 日目（6 月 8 日）

佐藤研究者が楽しい動機付け、山神研究者が体ほぐし運動、軽米研究者が剣道に必要な動きづくり、有田研究者が伝統的な行動の仕方についてそれぞれその他の研究者を生徒に見立て、授業形式で指導法の発表を行った。続いて、花澤研究者が座礼、帯刀、構え、素振り、基本打突といった基本動作の指導法を行った。次に軽米研究者が一部防具も使用しながら面、小手、胴の打たせ方の指導、竹刀で面を受ける際は頭上ではなく竹刀をなるべく体から離し、額の位置で受けるよう安全に配慮した注意がなされた。

午後は吉田・有田両研究者による、木刀活用した場合を想定した木刀による剣道基本技稽古法の基本 1～6 と評価についておこなった。

休憩をはさみ、学校に剣道部のある場合を想定し、剣道具の着装、防具を着けての基本打突の指導を行った。段階的な指導として①その場から打つ②一足一刀の間合から打つ③一步攻めてから打つ④踏み込んで打って残心、というようにゆっくりから徐々に早く、近い間から遠い間へ移行していく。

基本的な打突ができるようになったら、小手面の判定試合を行い、習熟度を確認する。試合を行う前に必ず判定基準を明確にする。判定基準が明確でないと授業で生徒が審判を行う場合、判断に迷ってしまい手が上がらない。基準は一本に必要な要素 3 つ：気（大きなかけ声）・剣（打突部で打

突部位をとらえる)・体(姿勢を崩さず打つ)とした。

試合後は判定の理由を伝え、今後の練習につなげられるようにする。

相手の変化(動き)に応じた基本動作の指導では、導入で行った「点と線」の要領で出ばな小手の練習をおこなった。続けて、さらに発展した様々な攻防の展開で簡単な試合を行った。3本勝負にすると勝敗が決する時間が組ごとに異なり、授業の進行がスムーズにいかないこともある。そういった場合は、気剣体のうち2つとった方を勝者とするポイント制で行うと一斉に決する。また、せっかく授業で基本動作を練習しても試合中に活かさない場合が多い。そういう時は、どうすれば一本になるのか生徒に考えさせる良い機会となる。面だけしか打てない等の条件を付けて行う方法も示された。ボクシングのように試合前に戦略を考えさせる、DVDを見せて出来そうな技をチェックさせる、その日の授業で学習した技を使用したら3ポイントにする等、工夫して生徒が意欲的に取り組めるような工夫が山神研究者によって紹介された。

■3日目(6月9日)

小久保研究者が「体罰・暴力によらない指導のあり方」について発表した。体罰は違法行為であり、絶対にやってはならない。体罰を行った教員の9割が自身も学生時代に体罰を受けた経験があり、若手の体育科教員に多い。部活動においては「勝利至上主義」が体罰を容認する傾向にあると説明したうえで、指導する際に生徒の欠点を見つけるのではなく、「褒めて指導する」に意識を変えていく努力をするべきと述べた。

続いて、佐藤(義)研究者が「剣道授業の展開」付録DVDのオリエンテーションでの活用法を紹介した。有田・軽米研究者による「剣道で伝えたい精神性について」の発表では、剣道指導の心構えを示し、画一的ではない、清く、正しく、たくましい人間の育成を目指す。そのために剣道の歴史、剣道の特性(対人性)、残心、勇気(克己)、努力(守破離)、感謝・思いやり、共存と共生、惻隱の情、判断力(正義感)、平常心などを養う学習指導計画の作成が必要であり、各学習段階における剣道で伝えたい精神性と評価基準を解説した。

次に、山神研究者から月刊『武道』に掲載されている「少年剣道指導法」から講話があった。

その中でより良い指導者のキーワードとして「PATROL&VSOP」を説明した。

PATROL: Process(過程を大切にする)、Acknowledge(相手を認める)、Together(共に楽しむ)、Respect(尊重する)、Observation(よく観察する)、Listening(よく聞く)

VSOP: Vitality(やる気)、Speciality(専門性)、Originality(独創性)、Personality(人間性)

また、指導者の仕事は①子どものやる気を引き出す②子どもの魂を揺さぶる言葉を持つ③子どもの心に寄り添う④子どもの願いを読み取る⑤子どもの良き憧れのモデルとなることとした。

最後に、指導のモットーに作家の井上ひさし氏の「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」の言葉を紹介し、魅力的な指導者になる心構えを紹介し、全ての研究協議を終了した。

閉講式では、小久保研究者が本事業で学んだ指導法を授業実践において活かす創意工夫を各自おこなうこと。本事業研究者の中から毎年5ブロックで開催している、全国剣道指導者研修会(主催:日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟)の講師を選抜することを視野に、今後も継続してより良い指導法の研究に励みたいと抱負と決意を述べた。

◇研究者
小久保昇治(全日本剣道連盟学校教育部会委員長)
吉田 泰将(慶應義塾大学体育研究所准教授)
佐藤 義則(全日本剣道連盟学校教育部会主任)
軽米 満世(袖ヶ浦総合教育センター教育研究指導員)
佐藤 哲通(栃木県小山市立小山第三中学校校長)
有田 祐二(筑波大学体育系講師)
花澤 博夫(大阪体育大学非常勤講師)
山神 眞一(香川大学教授)
山田 博子(宇都宮市教育委員会指導主事)
島居 奈緒美(福岡県体育研究所指導主事)
蝦名 武宣(北海道中標津町立中標津中学校)
國原 宣昌(福島市立第一中学校)
八坂 和典(埼玉大学教育学部附属中学校)
浅野 浩平(富山市立西部中学校)
坂神 通良(名古屋市立楠中学校)
小川 泰伸(和歌山市立東和中学校)
國谷 雅之(大阪府泉大津市立誠風中学校)
宮川 瑠璃子(山口県宇部市立厚南中学校)
谷本 吉弘(高知市立城北中学校)
黒土 進治(佐賀市立金泉中学校)
大島 弘士(新潟県上越市立春日中学校)
◇日本武道館事務局(順不同・敬称略)